平成24年度地域医療支援センターの事業概要

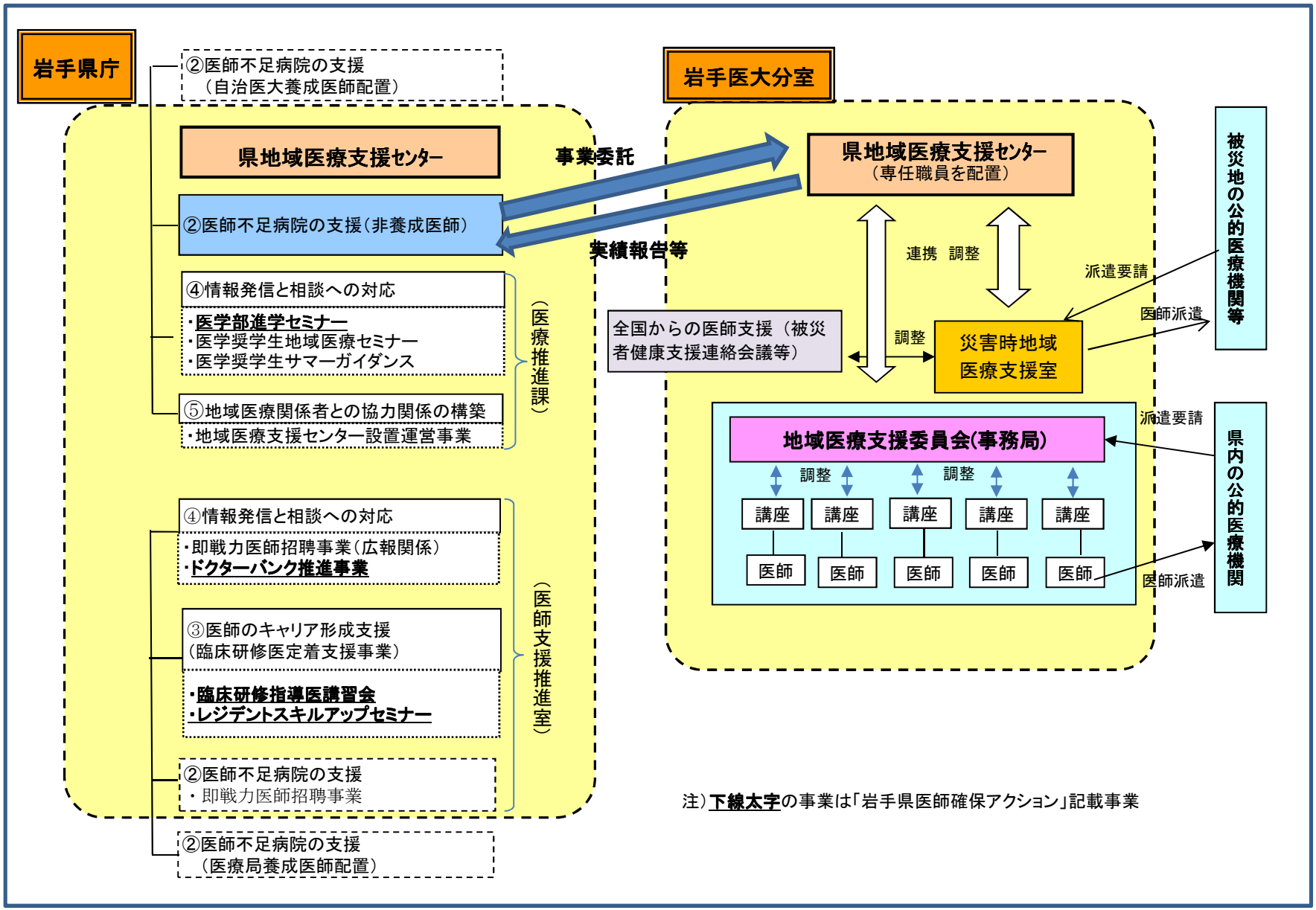
H24事業費　23,123千円（国庫対応事業費）

実施要綱に定める実施事業	主な事業内容
医師不足状況等の把握分析	個別病院の医師不足状況の調査や、医師養成の見込、医療需要の変化予測等の検討。
医師不足病院への支援	・即戦力医師の招聘活動や岩手医科大学による応援医師の派遣調整。（専任医師1名　専従職員1名） （岩手医大委託事業）　平成24年度の派遣状況　　常勤医派遣251名（中央病院44名、久慈病院27名ほか） ・医師招聘事業　　招聘数数19名（8月末現在見込）
養成医師のキャリア形成支援	・臨床研修指導者講習会の開催（11月2日～3日開催予定） ・レジデントスキルアップセミナー（9月28日～29日開催予定） ・臨床研修医合同勉強会 ・養成医師のキャリア形成の検討（WG参画）
情報発信と相談への対応	・ドクターバンク登録事業（専門誌への医師募集広告） ・医師招聘事業（医師募集のリーフレット、パンフレット作成） **・いわて奨学生サマーガイダンス　（8月9日開催　参加奨学生26名。）** ・高校生、医学生向けセミナー（25年3月開催予定） **・医師奨学金制度ポスター200部制作、東日本の大学等へ配布。**
地域医療関係者との意見調整	地域医療支援センター運営に係る関係者との意見調整（地域医療対策協議会の開催） ・9月5日　第14回地域医療対策協議会開催。 ・H25年2月に第15回協議会開催予定。

資料　No.2-3

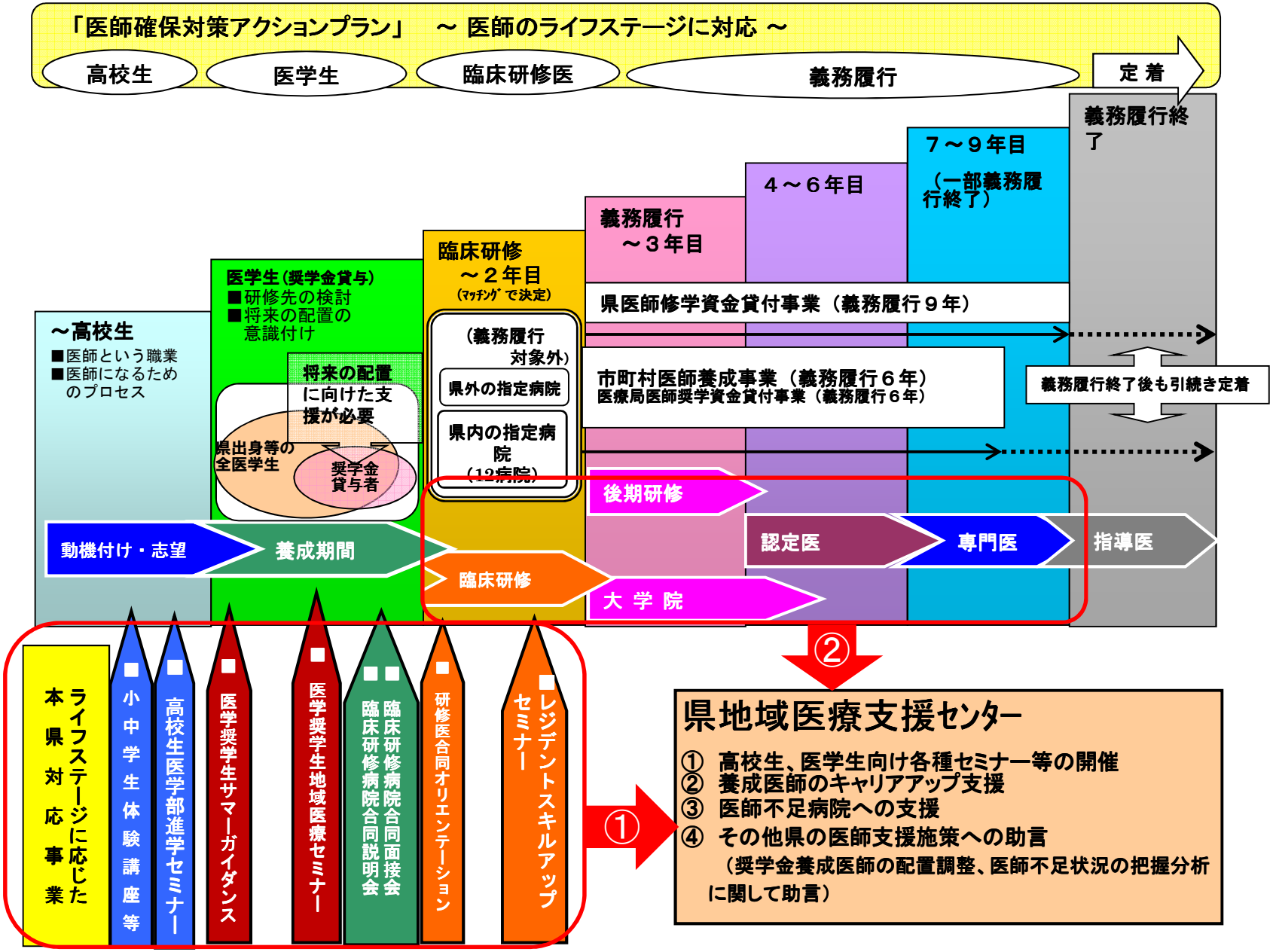
（注：太字は実施済み事業）

岩手県地域医療支援センター実施体制



注）下線太字の事業は「岩手県医師確保アクション」記載事業

養成医師のキャリアアップと医師不足病院の支援



地域医療に理解深め

盛岡・奨学生説明会　現役医師が講演

現役医師らの講演に熱心に耳を傾ける医学奨学生

県は9日、盛岡市中央通1丁目のエスポワールいわてで、医学奨学生サマーガイダンスを開いた。奨学生は大学卒業後、臨床研修を経て地域医療への従事が義務となっているが、大学中退や医師にならないなどの理由で義務不履行の人も出ている。現役医師らは本県の医師不足の現状を説明し、県民の期待の大きさを訴えた。

本年度から県、県医療局、市町村の奨学金を受け始めた42人のうち26人が参加した。

盛岡赤十字病院副院長で、いわてイーハトーヴ臨床研修病院群の村井啓子副代表は臨床研修や求められる医師像を講演。「包括的医療と高度先端医療の両立が必要になってきており、自分の専門科以外も診察できるオールラウンドな医師が理想」と話した。

達増知事は医師不足問題について「医師数は増加しているが、全国水準を大きく下回る。皆さんに寄せる期待は大きい」と、本県での活躍を望んだ。

岩手医大1年の菊池琴佳さんは「岩手は医師不足なので、何でも診られる医師になりたい。産婦人科など女性医師として患者に安心感を与えられるような職場もカバーしたい」と意気込んだ。

医学奨学生は、臨床研修後、通算6年または9年間、県内の公的医療機関に勤務すれば返還が免除になる。

県によると、貸し付けが始まった2002年度から11年度末までに約15人が、義務の不履行で奨学金を返済した。義務履行終了は15人、履行中は56人、大学院への進学などで履行猶予は63人となっている。

平成24年8月10岩手日報